

# 平成25年度 長野県女性審判員講習会

## 報告書

期日:平成25年12月21(土)・22日(日)

会場:長野運動公園総合体育館



# 平成25年度 長野県女性審判員講習会 実施要項

- 1. 目的** 女性審判員の強化・育成および交流・情報交換の場とする
- 2. テーマ** 『女性審判員に必要な強さとは？』  
⇒ 4原則の徹底はもちろん、参加者各自が『強さ』をどう表現すればよいのか？  
なぜ強さが必要なのか？を考え・意識してゲームに臨み、挑戦する
- 3. 大会名** 平成25年度 第4回東日本高専バスケットボール大会
- 4. 期 日** 平成25年12月21日(土)・22日(日) ※23日(月・祝)まで大会開催
- 5. 会 場** 長野運動公園総合体育館  
住所：〒381-0045 長野市吉田5-1-19  
電話：026-244-3290
- 6. 講 師** 長野県バスケットボール協会審判部企画委員会より  
山本 邦博氏 (長野県公認A級審判員)  
尾形 美樹 (長野県公認A級審判員)
- 7. 参加資格** 長野県公認または日本公認審判員資格を有す女性審判員・意欲のある未公認女性審判員
- 8. 参加者** 【長野市協会】 藤澤純子・小島靖子・村田朋菜  
【須坂市協会】 越絢美  
【松本市協会】 倉澤智子・田中実佳・榎本麻衣・草間陽子・古畑久美子・輿理紗子  
【上田市協会】 小金澤ななえ・中谷律子・小山田のぞみ  
【飯伊協会】 壬生朱音・下平春菜・木下英里香 合計 16名
- 9. 日 程**

【12月21日(土)】		【12月22日(日)】	
12:00	集合	8:30~	講義
12:15~	講義	9:00~	実技I~VII
13:30~	実技I~VI	18:30	講習会終了予定
18:30	講習会終了予定		解散
19:30~	懇親会		
- 10. 連絡先** 担当：尾形美樹 MAIL：ogatamiki0501@gmail.com  
TEL：090-9358-0769

## 講義の様子



## 講習会を終えての感想

### 【藤澤純子】

昨年も参加して感じたことは、人数が増えていて、昨年参加した方は確実に昨年より、成長しているということを感じました。

「女性の強さ」というのが、テーマでしたが、コートの上では近年始めたという方々の堂々とした様子や笛の力強さ、また、高校生の方々の物怖じしない様子に本当に驚きました。人数が増えたことで、いろんな方とバスケットやレフリーについて話ができたり、女性同士仲間がこんなにいると楽しいなど、私も若返り、楽しかったです。参加したみなさんにもそのように思ってもらえたんじゃないかなあと思いました。若い方も沢山いたので、これからの大会の最終日にも名を連ねるようになるくらい成長して欲しいし、この講習会も回をどんどん重ねてもっと、女性レフリーの輪を広げたいなと思いました。

私は、今回2日間参加することができて、本当に良かったです。何よりも自分自身を見つめなおすいい機会になりました。今後、できる限り時間を作ってレフリーをしていきたいなと思いました。

また、講師の山本君には、貴重な体験を話していただき、それぞれに合った、ご指導やご指摘をいただきました。2日間大変だったと思いますが、みんな何かを得て帰っていったんじゃないかなと思います。ありがとうございました。

### 【小島靖子】

初日のみの参加、初めての参加、どんな人が集まるのか、どんな感じなのかワクワクしながら東和田に向かいました。

割当は松本協会の草間さんと。豊田-産技品川。久々の男子ゲーム、講習会ゲームでしたが、今の自分にできることをしっかりやろうと思いました。リードでの動き方、ゲームの後半での集中力切れ、講師の美樹に言われたとおり、ゲーム中自分でも感じていた事でした。まずは出産前の自分に少しでも近づくこと、それを目標に2014は活動していこうと思えます。

それにしても、県内の若い子が増えて、あのやる気とあの前向きさ、すごく刺激を受けた1日でした。私にもそんな時代があったなと懐かしくも思い、でも審判がうまくなりたいという気持ちはあのころと変わっていない、と気づかされた1日でもありました。こんなおばちゃんを参加させてもらってありがとうございました。

### 【佐藤智子】

現在の自分の大きな課題は技術面で二つ、精神面に一つあると考えている。

技術面では、あらゆる場面におけるトラベリングの確認の不十分さと空中での攻防の判定だ。特にゴール下での多様なステップからのシュートの際に、軸足の確認を十分に行わず、感覚的に判定している場面がある。また、プレッシャーデフェンスが行われ、ダブルチームなどのシチュエーションが発生したときに、デフェンスのファールばかりに気をとられ、オフenseの足下の確認が不十分になることが多い。今回の講習会で担当したゲームでも4番5番エリアでダブルチームデフェンスが起きた時に、足下の確認が十分でなかったために笛を鳴らさず、ベンチからアピールされるケースがあった。一試合を通して、トラベリングについて鳴らすものと鳴らせないものがでてしまい、これまで課題と感じていたように、試合を通して一貫した判定ができなかった。解決策として、リードの時に近すぎるという指摘を頂いたので引いて見ることを練習したい。これまで、リードの時にボールに目が行ってしまったり、ゲームを漠然と眺めてしまったりすることがあり意識的に現場に近づくようにしていた。しかし、今回のように男子のゲームでは近づきすぎてしまうと判定が難しくなってしまうし、オフenseとデフェンスの両方をとらえることができないので、必要に応じて近づいたり、引いたりしてスペースをとらえられるように練習していこうと思う。また、この

ことは空中での攻防の判定につながると感じた。社会人男子や高校のトップレベルの選手たちのゴール下の攻防の判定が小柄な自分にとっては大変判定しづらいと感じているので生かしていきたい。しかし、地上でのポジション争いについての判定は、仕掛けの場面に目を置いておかなければ判定できないし、その予測がまだまだ不足しているので、できるだけ多くの経験を通して努力していかなければいけない。

精神面では、積極的に笛で表現しようとしないう、挑戦できていないことだ。無難に吹こうとしている、表現がないのでベンチが信頼できないという指摘を最近されることがあった。自分でも感じているのだが、挑戦できない。理由はいくつかあるが、一試合を通しての精神体力が低いことが大きいと思う。これは、体力に大きく関係していることが明らかだ。運動する機会と時間が減り、審判の度に体力の低下を感じている。トレーニングでしか補えない事なので真剣に考えていきたい。

また、今回の試合では主審として相手審判への配慮が大きく欠けていたと思う。女性だからこそできるベンチへの配慮や、相手審判との連携があると思う。この講習会で、相手レフリーの自分の目の前の現象を積極的に判定しようとする姿や、上級審判員を目指す長野県の女性審判員の中で講習させて頂いたことが、大きな刺激となった。今後の自分の活動に生かしていきたい。

#### 【田中実佳】

今回の女性審判員講習会を通して、たくさんの刺激を受けました。

たくさんの女性審判員仲間がいて、それぞれの思いを持ち、審判に向き合っていること。私自身もよし！と思えることができたのと同時に、負けてられないなという気持ちがより一層強くなりました。自分の持ち味であるバスケット感を大切にして、これからも仲間たちと共に成長していきたいと思いました。

『女性は強い』という言葉がもっと現実味を増すように、私も力をつけていきたいと思います。頑張ります。

このような講習会に参加できたことをありがたく思います。今後も宜しくお願いします。

#### 【榎本麻衣】

今回の講習会において、二つの気づきがありました。

一つは、「自分自身への自信の無さ」です。越さんと吹いたゲームの中で、4番エリアからベースライン側へのドライブからショットに行くプレイヤーへのファールを取り上げた場面で、フリースローなのか？スローインなのか？を迷ってしまった(act of shootingでフリースローが妥当だったがスローインにした)場面がありました。そして、そのゲームの後半では、特に笛にすべき現象がなかったのですが、自分が笛を吹いていないことがすごく不安でした。そのような不安から、相手が確認しているものを無理に吹いてしまうということもあります。この気づきにおいては、自分のエリアでの現象を1つ1つ確認し、判定し続けることを徹底することが1番であると思います。

二つ目は、「仲間・ライバルの存在」です。今回の講習会には多くの女性レフリーが参加していました。経験は様々ですが、バスケットやレフリーへの情熱はみなさん熱いものを持っていました。そのことを会話やレフリングから実感することができ、「負けたくない！」という気持ちとそのためにも自分自身がさらに成長しなければならないこと、みなさんから多くのことを吸収しなければならないことに気付くことができました。このように切磋琢磨できる環境は大変素晴らしく、これからも向上心を高く持ち続ける源となると思います。

今回このような機会を与えてくださり、また、親身になってご指導をいただいた、山本邦博さん、尾形美樹さんに感謝いたします。この講習会で学んだことを着実に自分のものとし、気付いたことを改善できるよう心掛けレベルアップしていきたいと思います。ご指導、誠にありがとうございました。

## 【壬生朱音】

昨年に引き続き女性講習会に参加させていただき、自分自身の課題を見つけ、たくさんの刺激を受け充実した二日間になりました。

この一年、自分自身レフリーの成長に伸び悩み、「上手くいかない、悔しい」という思い、周りから評価されることや、ジャッジするということが怖く自信を持って思い切りの良いレフリーができずにいた中での講習会でした。年明けに1つの目標であった北信越クラブへの派遣が決まっていたので、この講習会では思い切りよく、いま自分自身の壁を少しでも壊せるようにと臨みました。二日間、尾形さん、山本さんにじっくりレフリーを見て頂き、反省を頂き、自分が少しずつ成長していると言って頂けたことで、自分の中にあったモヤモヤが少し解消され自信ができました。試合の中でも、アンスポ、オフェンス・ファウルなど思い切って吹けたものが多くあり、経験につながりました。

また、二日間多くの仲間のレフリーをする姿や熱い思いを目の当たりにし、多くのことを感じました。県公認の皆さんのレフリーに取り組む姿勢、大きな目標には学ぶものが多くあり、がむしゃらにレフリーに取り組んでいた時の気持ちを忘れてはいけなと感じました。さらに、今年度は高校生レフリーや後輩の参加があり、私も高校生レフリーからのスタートなのでとても喜ばしく思いました。なかなか自分だけでは指導力不足な点もあるので、今後地元協会での指導方法のヒントをお聞きすることができました。

コートの上では切磋琢磨しあえ、コートの外では楽しく交流を深められる仲間が多くいることに感謝したいです。

今年度もこのような貴重な時間を作っていただきありがとうございました。この二日間で学んだことを忘れずに、私の「一生懸命足を使って丁寧にプレイをとらえる」レフリーの姿勢を大切に、さらに「思い切りの良さ」と「自信」をプラスして今後も取り組んでいきたいと思えます。

## 【小金澤ななえ】

私は、この講習会で「確認することの大切さ」と「相手審判との信頼関係」という2つのことを学びました。審判を行う上でパートナーとの協力は必要不可欠です。どのような状況であっても、最後までお互いを信じてゲーム運営をすることがプレイヤーやベンチにとっての信頼に繋がるのではないかと改めて感じました。

### 1. 確認することの大切さ

「…かもしれない。」という気持ちが大きなミスのきっかけとなってしまいました。

青のファウルがあり、白のフリースローとなりました。私はリードレフリーでフリースローの準備をしていました。青のコーチがT Oに向かいました。コーチがT Oに向かって指で「2」を出しました。そのとき、私は「条件付きのタイムアウトかもしれない。」と思いました。しかし、確認せずにゲームを再開してしまいました。案の定、2本目のフリースロー終了後、タイムアウトがありました。すぐにT Oに確認しました。条件付きのタイムアウトでした。しっかりと感じたときに確認すれば、防げたミスでした。次からは、感じたときに行動することを大切にしたいと思えました。

### 2. 相手審判との信頼関係

相手審判の目の前を吹くとき、絶対の自信と誰が見てもファウルだと思う現象でなければ吹いてはいけなと感じました。無理に鳴らすと相手審判との信頼関係が崩れてしまうきっかけになってしまうと感じました。一度感じた違和感は、なかなか消えず、切り替えることが大変だと思えます。相手審判に不信感や不安感を与えないためにもやっちはいけなと感じました。

以上がこの講習会で改めて感じた・考えさせられた内容です。私は、これから、多くの経験・チャレンジをしていきます。1ゲーム、1ゲームを大切に審判していきたいと思えます。今後も一生懸命頑張ります。

<感想>

私は、この講習会に『特別な思い』で望みました。

昨年、11月に肩の手術により、審判活動ができない状態が続きました。そんな中、むかえた第1回

女性審判講習会。自分が動けないという状態に正直、苛立っていました。講習会では、たくさんの女性審判員がいて、自分の目の前で審判をして、ジャッジをしてコールをして、反省をもらい、多くのことを吸収していく姿を見て、焦りを感じていました。もちろん、活動することが審判のすべてではないということはわかっていました。出来ないなら他に自分で出来ることをする。他の審判を見て学ぶということ。あの時、たくさんの人に『見て学ぶ』ことの大切さを教えてもらいました。自分でもわかっていました。わかっていたのに素直に受け入れられませんでした。目に見える、1ゲーム、1ゲームのみんなの成長がうらやましくて、出来ないことが苦しくて。みんなの成長を素直に喜べない自分がいて、そんな自分が情けなくて、恥ずかしくて…。そんな弱い自分を見つけ、見直すきっかけとなったのが女性審判講習会でした。

あれから1年。審判活動に復帰して8ヵ月。第2回女性審判講習会が行われました。複雑な思いでした。去年までの自分を思うととても不安でした。しかし、この女性審判講習会に講習生として、ゲームが担当出来る審判として、参加出来ることへの喜びは非常に大きかったです。去年、立てなかったコートに立てることが嬉しかったです。審判が出来るということに喜びを感じました。審判をやる中で、辛いこと、悲しいこと、心が折れそうになること、たくさんことがあります。それでも、自分は審判が好きなんだあと気づいた、第2回審判講習会となりました。

最後になりましたが、私たちのために女性審判講習会を企画・運営してくださいました尾形様をはじめ講師の山本様、プレイヤー・チーム関係者の皆様、多くの女性審判員の皆様に深く御礼申し上げます。今後の私の成長が皆様への恩返しとなるよう、日々精進して参ります。2日間、貴重な経験をありがとうございました。

#### 【草間陽子】

女性審判講習会を開催して頂きありがとうございました。去年は審判を続けていこうと勇気を与えて頂き、今年は日本公認や目指している仲間と過ごし、刺激を受けて、私も目指してみようと思いました。年齢や体力の衰えに負けず、やるだけやってみようと思えました。尾形さんに去年より成長したと言って頂き 嬉しく思い、もっと頑張りたいと思えました。山本さんがせっかく松本協会にいらっしゃるのでどんどん教えて頂き、来年は県登録して色々な試合を吹かせて頂き、成長したいと考えています！いつも審判をするとベンチや選手に辛い声をもらいますが、今回は皆さん素直で文句を言わないチームばかりで、そんな審判を信じてプレイしてくれる選手の皆さんといい試合が出来るよう、審判の勉強頑張ります。

来年の審判講習会で草間陽子、また成長したと言っていただけのように…どうかまたご指導よろしくお願ひします。

#### 【小山田のぞみ】

先日は講習会の企画・運営ご苦労様です。あのような講習会に参加させて頂いて本当に勉強になりました。

最後の試合は特に印象的で自分の力量が測れた試合でした。私の全てをコートに置いてくる気持ちでのぞみました。まだ経験の浅い古畑さんを盛り立てて、いかにゲームメイキングをするかが自分自身の課題でしたが結果、試合を収束に向かう事はかなり困難で今後課題が浮き彫りになりました。悪いことばかりではなく、課題だったオフボール時のファールの取り上げ、口頭注意、選手へのガス抜きは出来るようになりました。それにゲームに全力でぶつかって行って達成感も脱力感も半端なくて体のダルさが最高でした(いい意味で)。ですがオンボールの時間が長いという点も山本さんに注意を受けたので、もうすこしオンボールの時間を短くするように努力したいと思います。

私にとって審判というものは海を潜る感じで潜っても、潜っても底に辿りつけなくて、何度も息継ぎをしながら海底を目指す感じです。今回も底が見えたと思ったらまた新たな海底を発見して本当に面白いと感じます。まだまだご一緒に出来るレベルではないですが、いつか一緒に笛を吹けるように精進します。今回は本当にご苦労さまでした。よい研修会をありがとうございました。

## 【越絢美】

「女性審判員に必要な強さとはなにか」をテーマに行われた第1回女性講習会から1年間がたちました。自分に必要な強さとは、「笛の音、鋭さ」、「凜とした姿で」、「思ったものを判定する」を課題に1年間取り組んできました。

女性講習会では、本当に沢山の女性レフリーの方と出会い話をする事ができました。中でも、「審判を始めたきっかけ」の話今回初めてお会いした方々と話をしました。自分の中でも、審判を始めたきっかけを思い返すことは、とても新鮮で、新たに頑張ろうと思う気持ちになりました。私自身、始めたきっかけは、地元の恩師に「女性レフリーが少ないからやってみない？」と言われ、たまたま吹いたことがきっかけでした。また「レフリー」と聞くと、私の周りで活躍をしている人たちが沢山いて、その姿が思い浮かび、「憧れ」、「あんな人になりたい」、「バスケットに関わりたい」という思いもあり、始めようと思いました。審判を始めたことで沢山の方に会い、大好きなバスケットに関われていることが今は、本当に私の財産だと感じます。

今回の講習ゲームでは、自分が思ったものはしっかりと笛に表わす事が出来ました。今まではなかなか笛で表わせなかったり、自信がないものは笛が弱かったりしていました。今年1年間、思ったものを笛で表わすという事を意識して取り組み、講習会で「自信をもって堂々と吹くことが出来ていた」といわれ、本当に嬉しかったです。同時に、吹いた中でこれは吹かなくていいというものもあったので、これからはそこを判断していきたいと思いました。また今回担当したゲームは、コミュニケーションをしっかりと取ることが出来ました。コミュニケーションをとることで落ち着いて吹く事ができました。今後も続けていきたいと思えます。

今回の講習会を通して、本当に沢山の刺激を受けました。バスケットの審判を行うために、沢山の考え・悩み・仲間に相談し、審判を行うことは決して楽しいことだけではないけれど、「大好きなバスケットと選手のために」があるので行えるのだと思えます。また周りでこれだけの女性審判員の方々が頑張っていて、切磋琢磨して行えるから続けられるのだと思えます。レフリーを通して出会えた仲間を大切に、これからも審判活動を行っていきたくと思えた講習会でした。

また今回の講習会の講師の山本さん・尾形には、沢山のアドバイスをしていただいたこと、本当に感謝しています。そのアドバイスを忘れず今後のレフリー活動に生かしていきたいと思えます。また、このような講習会を開催していただき、本当にありがとうございました。

## 【古畑久美子】

審判を始めて一年、初めて今回のような講習会に参加する事ができ、とても勉強になった二日間でした。講師の山本さんのお話の一つひとつが興味惹くものであり、参加者それぞれの質問、その答え、全てが勉強になりました。山本さんの「試合を楽しむ」という言葉。この一年で高校の練習試合や市内リーグの審判を経験させていただきましたが、まだまだ緊張し、自分のジャッジに自信が持てません。吹いた後はいつも自己嫌悪に陥っていました。「試合を楽しむ」それが今の私の最初の目標だと思っています。もちろん一つひとつのジャッジをきちんと行うこともありますが、それらを含めてまずは「試合を楽しむ」ということを今回の講習会の目標でもありました。

今回、高専の大会を吹くということで私にとっては人生二回目の公式戦でした。初日はとにかく緊張していてジャッジするというよりは緊張を紛らわすために走ることに精一杯になっていたような気がします。二日目、一試合目は今まで審判を経験した中で自分の今の力量の範囲で一番笛が鳴らせ楽しむことができた試合でした。二試合目は逆に今までで一番きつく辛い試合になりました。一日の中で、審判の楽しさ、吹けないことの辛さ厳しさ、両方を経験することができました。どちらも本当に良い経験になりました。反省会では自分の不足している部分を沢山指導していただき、これからの課題を見つけることができました。また良かったところを指摘していただき自信につなげることもできました。

今回の講習会のテーマである「女性審判に必要な強さ」正直はじめはよくわかりませんでした。しかしこの二日間で少しだけわかったような気がしました。沢山の女性審判員の方の動き、表現の仕方、それぞれ違い、自分なりの表現の方法をこれから見つけていきたいと思えました。今回山本



さんの話、実技を通して沢山のことを学ぶことができました。そして講習会を通して県内の女性審判員の方と知り合うことができ、沢山の情報交換ができたことが今後さらに審判を頑張っていく、技術向上を目指していこうと思うことができました。これからも積極的に審判の経験を積み、自分の目指す「選手に不安を与えないレフリー」になれるよう頑張っていきたいと思います。来年もまた講習会へ参加できることを楽しみにしています。二日間ありがとうございました。

#### 【下平春菜】

初めて講習会に参加し、女性レフリーの方々と関わる中で、自分が改めてもっとたくさんの経験をし、勉強しなければならないことに気付かされました。先輩方の笛を吹く姿に圧倒されたことと共に、恩師もこういう中で活動してきたからこそ、誰から見ても納得、安心できるような笛を吹くことができただんだなと思えました。色々なレフリーの方を見て、それぞれ特徴があるんだなということに気付きました。そういうところから、自分がどういうレフリーになりたいのか、何を心がけてやっているのが大切だと思えました。まだ経験がないからと、不安げに吹くのではなく、一つ一つのゲームで今自分にあるすべてを出し切って、間違えても次のゲームで必ず改善できるように取り組んでいきます。

とても勉強になりました。またよろしくお願ひします。

#### 【村田朋菜】

今まで女性同士で男子の審判を吹いたことがなかったので、女性同士でどうやって男子の試合をコントロールするのが勉強になった。また、初めて主審をやらせていただき、主審は副審をどうやってフォローするべきなのか経験できてよかった。さらに、色々な地区のレフリーとお話することができとても楽しかった。

#### 【木下英里香】

今回初めて講習会に参加させていただきました。まだレフリーを始めて10カ月という、経験があまり無い私にとって「男子のゲームを吹く」ということができとても勉強になりました。

吹かせていただいた試合を通して、今まで知らなかった事を知ることができましたし、ハプニングもあり、いかに相手レフリーとのコミュニケーションが大切なのかも再確認することができました。「失敗」したことで少しは成長できた気がします。

また、自分の課題もはっきり見えたので、もっと経験を積んで頑張っって課題を無くしていきたいです。県内の女性レフリーのさん達と知り合うことができ、嬉しかったです。

#### 【輿理紗子】

今回は見学をさせていただきありがとうございました。今まで選手としてのバスケットしか見ていなかった私には、学ぶことの多い一日となりました。まだまだレフリーのことも分からずまともなことは言えませんが、初めてレフリーの目線から公式戦を見た率直な感想を書かせていただきます。

まず先輩方を見て、レフリーの世界に終わりや満足することはないんだと実感しました。常に向上心を持って、日々成長することを考える。どんなに頑張っても完璧はない。レフリーはスポーツをするうえで必要不可欠ですが、プレイしたりコーチングするよりも大変な事なんだと思えました。それなのに、終わりがなく表に出ることのない世界。そんな世界でも諦めずに挑戦している先輩方はすごいと思います。私もやると決めたからには、とことんやってみようと思えました。

先輩方は普段は弱音を吐いたり悩んでいても、いざ試合を吹くとき、コートに立った時には、胸を張って堂々としていて本当にかっこよかったです。やる時には周りを不安にさせない、自分に

自信を持つ、その切り替えが大事だと思いました。

またレフリーは一人ではなく、常にパートナーと支え合っているんだとわかりました。でも助け合うには、それぞれが責任を果たしていなければならないし、協力する気持ちが必要であることもわかりました。

レフリーはプレイするよりも試合の流れや周りの状況であったり、様々なことを考えて吹いているんだと知りました。時間はかかると思いますが、私もより多くの事に気を配りながら試合を吹けるレフリーを目指したいと思いました。

そして見学をしてみて改めて、自分が勉強不足だと感じました。だいたいのルールがわかっているけれどプレイはできませんでしたが、レフリーをやるからにはルールブックを一から叩き込んで、どんな状況にも対応できるだけのだけの知識が必要だと思いました。また、先輩レフリーの試合をたくさん見学したり、色々なお話を聞いて、自分の中での軸を作りたいと思いました。

レフリーの先輩方はみなさんいい人で、本当に優しくかったです。興味を持って始めてみて、良かったと思いました。まだまだお世話になってばかりでたくさんご迷惑おかけしますが、いつか私にも後輩ができた時には優しく親切にしてあげたいと思います。

まだレフリーを始めて二ヶ月で公式戦を見学できたことは、とてもいい経験になりました。これから、少しでも先輩方に近づけるように頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

#### 【御礼】

はじめに、県審判部の皆様のご理解とご協力により第2回目となります女性審判員講習会を無事に終えたことをご報告いたします。講習会開催にあたり企画委員会、各郡市協会審判長の皆様、多くの方々のご協力とご支援をいただき感謝しております。また、審判部より補助をいただきましたこと、重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度は東日本高専大会を使用し講習会を行いました。昨年度よりも吹き応えのあるゲームが多く、大変充実し有意義な二日間となりました。今年度もやはり「やって良かった」というのが素直な感想であります。

今回の講習会では日本公認審判員よりも、県公認審判員、高校生レフリーの積極的な参加があり、比較的若い世代が多く集結しました。それだけ長野県内での女性審判員の数が増えているのだと感じることができ嬉しく思いました。現在、長野県の女性日本公認審判員は19名、意欲的に活動をしている県公認審判員は10名程、また、高校生レフリーの存在、と全県にわたり年々増えている状況にあります。先輩女性審判員をはじめ日頃の若手女性審判員の活躍の賜物と思います。

今年度で第2回ということもあって昨年度より継続して皆さんの取り組みを拝見することができ、参加された多くの方々の1年間の取り組みの成果を感じることができました。『成長』という言葉が最適であり、昨年度よりも堂々とした立ち姿、判定するための力強い走り、力強い笛、安易にファウルとしない良い判断に良い見極め、時にはアピールに屈せずに毅然とした対応をする姿…様々な部分で昨年度とは取り組みや意識の違いが良い変化として見て取ることができました。そのような姿に思わず感心・感動し、鳥肌が立つ瞬間もありました。1年でこんなにも変えられるものなんだと正直驚く方も中にはいらっしゃる、今後の皆さんの活躍には益々期待しております。

中には経験をしていく中で迷いが生じ、自分に自信が持てない様子も見受けられました。迷いは誰もが何度も経験する成長の過程であり、いわゆるスランプ状態の方とフレッシュな方と組むことで以前の自分に振り返ることもできたのではないのでしょうか。よく初心に帰ると表現しますが、駆け出しの頃の自分に立ち戻るきっかけとなり、同時に負けられないという競争心にも火が付きお互いが高めあうことができる環境であったように私は感じました。

最後になりましたが、ご多忙にもかかわらず講師を快く引き受けてくださった山本さんには大変感謝しております。講義・ミーティングとにもご丁寧にご指導いただきありがとうございました。さらなる長野県女性審判員の底上げのためにも、皆様のお力添えのもと、今後も益々精進してまいります。また、来年度以降もこのような講習会の開催ができますよう、今後ともご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

尾形 美樹